



## <バイオ医薬・リサーチ・レポート>

情報提供用資料

2024年5月9日

# バイオ医薬 日本企業が買い手となった直近 M&A 動向

## ■ 買収対象になる可能性の高いバイオ医薬企業を見出す目利きが重要

最近、バイオ医薬・製薬セクターで日本企業が買い手となった数千億円単位の M&A に関連したストーリーが続いている。①小野薬品による経口抗がん剤を主力とする米デシフェラの約 3,700 億円を投じる買収、②住友ファーマが数千億円を投じて買収した英マイオバントに係る減損損失 1,808 億円の計上である。後者では、買収対象由来の売上が想定を下回っていることなどが減損計上の契機となった。③2023 年 7 月にアステラス製薬が約 8,000 億円を投じて眼科領域に強い米アイベリックを買収したことも記憶に新しい。

これらの M&A 案件では、支配権を得るために、時価に対して上乗せした買収価格が設定される。①では発表前日の終値に対して 74.7%、②では完全買収の契約を締結した時点の前月末株価に対して約 50%、③では発表前月末から過去 30 日間の平均価格に対して 75%のプレミアムが乗せられた価格が買収価格とされた。ここから言えるのは、買収対象になる可能性の高いバイオ医薬銘柄に投資しておき、買収に応じてのエグジット（投資回収）を目指すことがバイオ医薬セクターにおける有力な投資戦略になるということである。

それではどのような企業を買収対象になるのだろうか。それは、成功する確率が高いと考えられる新薬あるいは候補品を有している企業、開花すると期待される有力な基盤技術を有している企業だといえよう。小野薬品が買収を決めたデシフェラの例でいえば、40 か国以上で発売済の抗がん剤を含む経口キナーゼ阻害剤という特徴的な技術を有していることが決め手となった。

買い手側の事情としては、いずれの企業も主力品の「特許の崖（パテントクリフ）」を控えていることがある。小野薬品の事例では、2028 年以降のオブジーボ特許切れを見据えて成長を持続するための事業戦略だといえる。パテントクリフへの直面を迫られる買い手製薬企業側の事情（日本企業に限らない）ゆえに、バイオ医薬企業を対象とした M&A は今後も活発な状況が続くであろう。資産運用の世界において、われわれも買収対象となる候補企業を選別する目利きを発揮していきたいと考えている。

## 日本企業が買い手となった最近のバイオ医薬 M&A 事例

M&A 買い手	対象企業	時期(年)	取引額概算	昨今の動き
住友ファーマ	英マイオバント 部分買収	2019	総額 3,200 億円取引の相当部分	1,808 億円の
	英マイオバント 完全子会社化	2022	2,500 億円	減損計上
アステラス製薬	米アイベリック・バイオ	2023	8,000 億円	網膜薬の上市
小野薬品工業	米デシフェラ・ファーマシューティカルズ	2024	3,700 億円	抗がん剤展開

以上

### 免責事項

当資料は、情報提供を目的として、キャピタル アセットマネジメント株式会社 (CAM) が作成したもので、投資信託や個別銘柄の売買を推奨・勧誘するものではありません。また、CAM が運営する投資信託に当銘柄を組み入れることを示唆・保証するものではありません。当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。